

自然再生活動の促進

○ 八郎湖の自然再生のため活動する地域団体の支援。

<p>八郎太郎プロジェクト</p>	
<p>地域団体「潟船保存会」が主体となって、八郎湖岸に原風景を取り戻そうと、水草の植え付け会を実施。 現在、八郎湖岸は、コンクリートで固められ、波がぶつかる湖岸は、水草が根付きにくい環境となっている。 そこで地域住民と連携し、波を消す堤を沖に設置し、波の穏やかな空間にアサザやヨシ・マコモなどの八郎湖原生の植生帯を造っている。ここは在来魚の稚魚など小魚の生息域にもなり、教育フィールドとしても活用予定。</p>	
<p>開催時期：9月(森の管理：消波堤の材料となる間伐材の搬出)、10月(水草植え付け会)</p>	


<p>田んぼの学校・谷津田再生プロジェクト</p>	
<p>地域団体「草木谷を守る会」が主体となって、八郎湖の水源地である里山をきれいにする取り組みを実施。 荒廃した田んぼを再生し、無農薬で行う昔ながらの農法を実践。田植えから稲刈りまで一年を通した取り組みとなっている。 地域の小学生と連携した餅米栽培と、地域住民・企業と連携した酒米、酒造りを主なプログラムとし、生き物調査やホテル観賞会と併せて行うことで、水源地を守りながら、湖に与える影響や、水源地の大切さを参加者に伝える活動。</p>	
<p>開催時期：5月(田植え)、6月(ホテル観賞会)、7月(除草)、9月(稲刈)、10月(脱穀)、11月(もちつき)、2月(お酒披露)</p>	

<p>外来魚を活用した肥料での野菜栽培</p>	
<p>大潟村農地・水環境保全向上対策推進会議が外来魚を駆除→肥料化し、それを地域の野菜グループが野菜づくりに活用している。 外敵である外来魚を、資源として活用するこの取り組みにより、湖の再生だけでなく地域の活力にも繋げようと「八郎湖を元気にする野菜」と名付け販売されています。</p>	
<p>取組時期：年中</p>	

未来の人・地域づくり

○ 八郎湖自然再生の大切さを、流域児童へ伝える出前授業や、県民へ伝えるフォーラムを開催。

<p>みんなが笑顔！未来の湖フォーラム</p>	
<p>茨城県霞ヶ浦と、八郎湖周辺の児童たちが、互いの湖の自然再生への想いや学習の成果発表を行うフォーラム。 児童が司会を担い、再生活動の必要性を大人へ呼びかけるなど、児童が主体となって啓発するフォーラム。 イベントでは、植え付け会や、魚粉肥料で育てた野菜の試食会なども行われる。</p>	
<p>開催時期：8月上旬</p>	

<p>流域児童へ出前授業</p>	
<p>流域の児童へ、八郎湖の自然再生の大切さを伝える出前授業。 茨城県霞ヶ浦で、先進的な自然再生活動を行っているNPO法人アサザ基金の飯島氏を講師に迎え、生き物の視点で湖を知るという授業は、児童の人气が高く、受講者数は延べ1,700人を超える。 さらに、「ミニ八郎湖をつくろう」と校内敷地に児童達でピオトープ(小さい池)をつくり、生き物観察を行ったり、そこで育ったメダカを湖へ戻すという実地授業も展開している。</p>	

協働とネットワーク化

○ 八郎湖の自然再生に関わる行政や地域、学術機関が連携できる仕組みを支援・整備。

<p>八郎湖の再生を考える集い</p>	
<p>これまで個々に活動していた団体(21団体)が連携し、広く県民へ八郎湖の現状や、活動の大切さを訴えるイベントを開催。 再生活動を参加者に体験させたり、湖で採れる魚などの試食を実施。 外来魚のブラックバスをハンバーガーにして「食べることで駆除に貢献する」という新たな再生活への参加の方法も提唱。 この他、メールマガジンの発行や、行政・団体が連携したブログを発信するなどの取り組みも行っている。</p>	

※この他、外来魚の駆除活動や、湖を歩くことで昔と今の違いを知って貰う「潟の岸辺を歩く会」も開催されている。